

あいであ & アイデア

肉用牛の簡易放牧技術その1 (牧柵設置術)

(独)家畜改良センター 渡邊 一博

簡易電気牧柵が良いのはなぜ…?

家畜改良センターでは、肉用牛の生産振興と田畑や果樹園等の未利用地解消を目指して、電気牧柵を使った放牧システムの普及に取り組んでいます。

現在普及している電気牧柵システムは、定位置で長期的利用を目的とした恒久柵と短期的利用で設置・撤去が簡単で低コストな簡易柵の2タイプがあります。

近年、耕作放棄地を活用した放牧では後者の低コストで設置・撤去の簡単な簡易電気牧柵の利用が増えております。

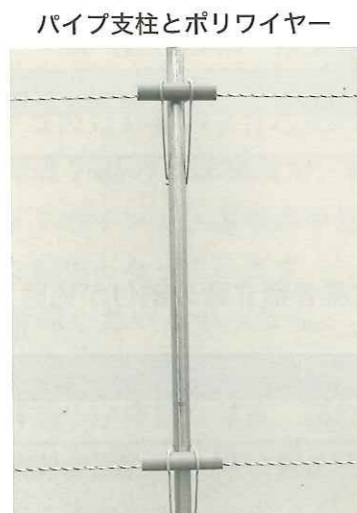
簡易電気牧柵は、専用のパワーユニット（ソーラーパネル・バッテリー・発電機のユニット）とポリワイヤー、その他の資材には、パイプハウス資材の再利用やホームセンターで安価に調達できる資材を利用し、簡単に設置が可能です。

ここがコスト低減のポイント!!

多くの農家ではビニールハウスを利用しており、古くなったパイプ資材が転がっているのではないのでしょうか。この古くなったパイプ資材は牧柵支柱として再利用が可能です、かなり

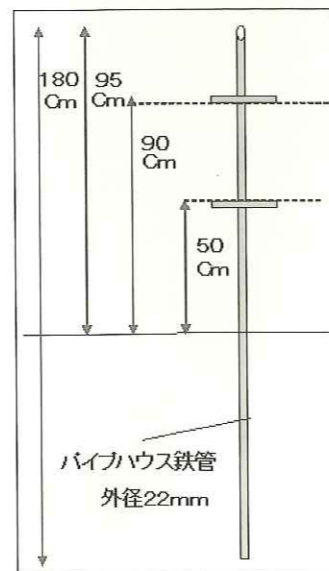


パイプハウス支柱



パイプ支柱とポリワイヤー

パイプハウス支柱の寸法と設置高



①漏電防止のため設置場所を刈払い。



②10m間隔程度に支柱を打込む。起伏がある場合は起伏に合わせて打込む。



③短くカットした塩化ビニールパイプを金具を用いて支柱へ固定。



④打込んだ支柱に塩化ビニールパイプを金具で固定し、塩化ビニールパイプの中にポリワイヤーを通して完了。



のコスト低減につながります。

また、パイプ支柱とポリワイヤーが交差する部分は漏電を防止するため、塩化ビニールパイプやポリ管を10cm程度の長さにカットし、パイプ資材の金具を利用して固定します。これらの資材も再利用により安価に調達可能です。

簡易電気牧柵に牛の出入口ゲートを取り付け、最後に発電ユニットを設置して完了となります。

放牧前に十分な馴致を!!

電気牧柵は心理柵であり、電気牧柵を設置後馴致なしに牛を放牧することは脱柵等の危険性があり大変危険です。

放牧前には必ず電気牧柵の馴致（1週間～10日間程度）をしっかりと行い、電気牧柵が怖いものであることを十分に認識させることで安全に放牧することが可能です。

今回は飲水及び日陰施設についてご紹介します。

また、当センターホームページにおいて「未利用地放牧に関する技術マニュアル」を掲載していますので、お気軽にご覧下さい。

<http://www.nlbc.go.jp/jisshotenji/index.html>

(次号につづく)

(筆者：(独)家畜改良センター企画調整部管理課)

あいであ & アイデア